

# 熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

(平成二九年一月～二月)

## Ⅰ 熊谷市史編さん委員会報告

平成二八年度 熊谷市史編さん委員会

日時 平成二九年三月二四日(水)午後二時～

場所 妻沼中央公民館 会議室一一一

### 【概要】

1 委嘱状の交付

2 議事

①専門部会等の調査活動について

・各委員及び事務局から、それぞれの専門部会等についての報告を行った。

②事務局が行った基礎調査等について

・事務局から、古文書調査等についての説明を行った。

③「別編2 妻沼聖天山の建築」について

④熊谷市史研究、熊谷市史報告書の刊行について

⑤「通史編上巻」について

・事務局から、進捗状況等について説明を行った。

### 【意見等】

・別府小学校の第一回国勢調査記念写真についての質疑があり、関係者の集合写真であることを回答した。

・奈良小学校関係資料についての情報提供を受けた。

・「別編2 妻沼聖天山の建築」の販売状況についての質疑があり、現在までに三五〇冊程度の販売が

あったことを回答した。

・史料集につき、それぞれの史料がこの本を見れば分かるのかとの質疑があり、解説を付けている旨を回答した。

### 3 視察

・妻沼展示館準備室等において、収蔵庫や事務局による古文書の調査・整理等についての視察を行った。

なお、熊谷市自治会連合会役職の交替に伴い、平成二九年三月一日付で、次の方の市史編さん委員会委員の委嘱及び解嘱を行った。

(解嘱) 細田 茂 (市民団体の代表者)

(委嘱) 野口 実 (市民団体の代表者)

平成二九年度第一回 熊谷市史編さん委員会

日時 平成二九年一月二六日(日)

午後一時三〇分

場所 熊谷市役所 会議室三〇三

### 【概要】

1 委嘱状の交付

2 委員長の選出

・互選により、委員長に飯塚好氏、副委員長に柿沼幹夫氏が選出された。

### 3 議事

(説明・報告事項)

①熊谷市史編さん委員会について

②熊谷市史編さんについて

③各専門部会等の活動について

・各委員及び事務局から、それぞれの専門部会等についての報告を行った。

(協議事項)

①熊谷市史編さんについて(諮問)

・事務局から、「調査報告書 中世の石造物」について、市史編さん大綱の年次計画を改め、刊行回数と、刊行年次を平成三三年度とすることについて説明を行った。

なお、任期満了に伴い、平成二九年八月一日付けで、次の方々に市史編さん委員会委員を委嘱した。

- 林 幸子 (市議会議員)
- 松本 貢市郎 (市議会議員)
- 小野 美代子 (文化財保護審議会委員)
- 飯塚 好 (知識経験を有する者)
- 柿沼 幹夫 (知識経験を有する者)
- 北村 行遠 (知識経験を有する者)
- 栗岡 眞理子 (知識経験を有する者)
- 宮瀧 交二 (知識経験を有する者)
- 西隈 均 (市民団体の代表者)
- 平井 加余子 (市民団体の代表者)
- 黨 千羽鶴 (公募による市民)

## II 熊谷市史編集会議報告

日時 平成二九年八月二四日(木) 午後一時三〇分

場所 市立熊谷図書館 第二会議室

### 【概要】

#### 1 経過報告

・平成二八年度市史編さん委員会報告

・平成二八年度編集会議報告

#### 2 各専門部会活動報告

・考古、古代、中世、近世、近代、現代、仏像・仏画の各専門部会及び学校資料調査について、編集委員及び事務局から報告を行った。

#### 3 事務局が行う基礎調査等の活動報告

#### 4 熊谷市史研究、報告書について

#### 5 市史編さん大綱の一部変更について

・「報告書 中世の石造物」に関し、年次計画等を一部変更することについて説明を行った。

#### 6 「通史編上巻 原始・古代・中世」について

### 【意見等】

・仏像調査の際、近世・近代に描かれた絵画についてもチェックしている。熊谷は画家も多く、地域の特色のひとつでもある。近世編や近現代編で取り上げるべきである。

(文責 蛭間 健悟)

### III 専門部会活動報告

#### 一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼 幹夫

平成二九年は、年度末刊行予定の『熊谷市史 通史編・上巻』（以下、通史編上）の原稿修正・補筆、図版原板借用・使用交渉、校正を進めた。

考古部会が担当している旧石器時代から古墳時代は二万数千年間という長きに及ぶが、その概は無文字社会で、資料は考古学が対象とする遺跡・遺物であり、歴史叙述にはどうしても状況証拠からの推定が多くなる。そのため、近年、研究が進んだ地質学や環境学、特に年輪セルロース酸素同位体比を用いた降水量変動の研究やレプリカ・セム法による栽培食物の同定などの成果を取り入れて客観的な記述ができるよう努めた。利根川や荒川が形成した妻沼低地とその周辺のムラの生活や生業を中心とした人びとの動向、度重なる気候変動や災害に遭いながらも生存をかけて立ち向かった人びとの知恵や力といったものに力点を置いた。

ヤマト政権という中央権力機構が成立する古墳時代については、北武蔵という地域的特徴から中央を覗る視点に立ち、この時代は少ないながら文字も登場するので文字史料に関わる項目は古代専門部会に執筆をお願いした。

特定人物が登場しないストーリー性が乏しい記述になりがちなので、写真や図を豊富に取り入れて目で楽しんでいただくことも心がけた。

#### 1 通史編上巻担当専門部会長会議

##### ①平成二八年度会議

（平成二九年二月一九日市立熊谷図書館第二講座室）  
スケジュール、各部会の進捗状況の確認後、体裁・図版等について意見交換した。口絵写真は8ページで、古は2ページ。地名・遺跡名表記・参考文献・図版出典一覧、ルビ等について統一を図った。

##### ②平成二九年度会議

（平成二九年八月二四日熊谷市役所会議室601）  
内容等について、意見交換した。口絵、章扉について考古は、口絵が前中西遺跡出土石戈・鏝塚古墳出土遺物、

章扉は人物の写真とし、土偶・顔面付土器・人物埴輪で検討する。

## 2 考古専門部会会議

### ①平成二八年度第四回会議

(平成二九年三月一九日市立熊谷図書館第二講座室)

1 ①の会議結果を受けて、図版のキャプション、表記方法について確認。

### ②平成二九年度第一回会議

校正スケジュールの確認。挿図・写真の作成・入手・

使用許可について確認。

## 3 熊谷市史編集会議

(平成二九年八月二四日熊谷市役所会議室601)

考古部会長が出席し、通史編上の進捗状況について説明した。

## 4 熊谷市史編さん委員会

### ①平成二八年度

(平成二九年三月二四日妻沼中央公民館会議室)

編さん委員として部会長出席。通史編上について審議がなされた。

### ②平成二九年度第一回

(平成二九年二月二六日熊谷市役所会議室303)

編さん委員として部会長出席。考古部会の活動状況と通史編上の考古担当部分の趣意について説明した。

## 二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

### 1 「通史編上巻」の執筆・校正作業

平成二九年度の古代専門部会は、『熊谷市史 通史編』上巻(原始・古代・中世)(以下、『通史編』とする)の刊行に向けての諸作業に従事した。

年間を通して部会構成員のそれぞれが、『通史編』の刊行に向けて、各自が担当する原稿の最終確定と校正作業に専心した。また、部会長は、各人の提出原稿の調整(難易度や表現の統一等)を行った。なお、一部、最終原稿の提出が予定の期日に間に合わず、部分的にはあ

るが予定していた執筆分担者の変更を余儀なくするような事態が生じてしまったが、事務局の献身的な対応もあり、何とか全原稿の入稿に漕ぎ着けることが出来た。

本年度は、各人の個人的な作業が中心となったため、部会会議の開催は最小にとどまった。

繰り返しになるが、本年度は何時にも増して事務局のお世話になった。改めてここに記して感謝したい。

## 2 専門部会会議等の開催

### ①平成二八年度第五回専門部会会議

(平成二九年一月二五日 大東文化大板橋キャンパス)  
事務局から進捗状況等の説明を受けた後、今後のスケジュール・執筆状況・原稿の確認等を行った。各編集委員が、執筆・校正を鋭意進めることとした。

### ②「通史編上巻」担当専門部会長会議

(平成二九年八月二四日、市立熊谷図書館)  
考古・古代・中世三部会の専門部会長が集まり協議を行った。

事務局から進捗状況の説明等を受け、協議を行って最終的な統一を図った。また、刊行後について、地域の人々との連携を深めながら、積極的に広報活動を行っていくべきことを提案した。

## 三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

### 1 「通史編上巻」専門部会長会議

#### ①平成二八年度会議

(平成二九年二月一九日 市立熊谷図書館)  
考古、中世の専門部会長が事務局を交えて協議を行った。休裁について協議を行った。巻頭に口絵を付けることとし、中世の担当は四頁とした。そのほか、部会同士で統一を図るべき事項等について審議・確認を行った。

#### ②平成二九年度会議

(平成二九年八月二四日、市立熊谷図書館)

考古、古代、中世の各専門部会長が集まり、「通史編上巻」についての最終的な確認を行った。

まず、事務局より、前回会議及び編集作業において生じた確認すべき事項について説明があり、再確認を行った。続いて今後のスケジュールの確認を行った。次に、内容や統一すべき事項について審議を行い、三部会合同の方針を決定した。

## 2 「通史編上巻」の執筆・校正作業

「通史編上巻」において、中世専門部会では、第六く一〇章の約五五〇ページについて担当した。執筆者は、全部で一四名を数え、幅広い分野から執筆者が揃った。

昨年中に初稿の原稿締め切りがあり、すでに多くの原稿が提出されている状況ではあったが、三月にはほぼすべてが揃い、その後、部会長による指示・依頼を経て、六月ごろには修正した原稿が出揃った。

各執筆者は、夏に初校、秋に再校を終えたところである。同時に事務局には、図版の準備や体裁の統一を図る作業を進めてもらった。

現在、三月の刊行に向けて、著者による最終校正を行っ

ているところである。

## 3 中世石造物調査会議

(平成二九年六月一〇日 市立熊谷図書館)

まず、今までの会議で審議してきたとおり、刊行を二期に分けず二分冊を一度に刊行すること、さらには、刊行の時期を平成三二年度としたいことを当会議の意見として承認した。この件については、平成二九年度第一回目の熊谷市史編さん会議にて諮問が行われた。今年度中に答申を出してもらい、教育委員会にて年次計画等の変更が決定される予定である。

続いて、「報告書 中世の石造物」についての審議を行った。各編集委員の考察のパートとなる第三章について、「……をよむ」という形の四節立てとすることとした。第一節は「板碑の出現と展開をよむ」、第二節は「かたちをよむ」、第三節は「銘文をよむ」、第四節は「場と分布をよむ」とし、それぞれの節に項を立て、執筆者を決定した。

また、集成表等については、委員についての再検討が必要であることが確認され、各委員が検討する前段階の

作業を数人の編集委員が行うこととなった。

#### 四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

近世専門部会では、平成二九年の主な活動として、平成二八年度の第三回部会、平成二九年度の第一回、第二回部会をそれぞれ開催した。平成二九年度はあと一回の部会を予定している。以下、部会の活動内容について略述する。

平成二八年度第三回近世部会（平成二九年三月一七日）

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、現時点までの調査終了の文書群はないが、旧大里町所蔵のコピー文書（一部原文書含む）や旧江南町のコピー文書の整理作業の説明があった。つぎに調査継続中の文書群について、平塚新田の山下一夫家文書をはじめ四三件の報告をうけた。また、新たに受け入れた文書として、

西城の茂木家文書など六件の報告があった。昨年度以前の調査継続中の古文書も多くなり、専門部会の要望に応えつつ、資料編にむけて優先順位の高い文書から整理をすることとなった。

・資料編の進捗状況について

資料編（三冊）の構成について検討がなされ、細野専門調査員からの草立て案を中心に、妻沼地域の主な掲載史料候補リストの提示があった。古文書調査の進捗状況と合わせて、より具体的な構成案を提示する方向で作業を進めることとなった。

・来年度の調査について

来年度は遠隔地の調査は特に行わず、国文学研究資料館などの関東近県の所蔵機関の調査を中心に行うこととなった。

・専門調査員の増員について

今回より専門調査員として吉田勉氏が加わることとなり、今後の編さん作業の関わり方について検討がなされた。

平成二九年度第一回近世部会（平成二九年七月二六日）

・古文書調査について



編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、板井の寺山家文書をはじめ一〇件の説明があった。つづいて現在調査中の文書群として、本石の竹井輝彦家文書をはじめ四四件の報告をうけた。昨年度より新規受け入れの文書が多くあり、結果的に調査継続中の古文書も多くなってきており、専門部会の要望に応えつつ調査を行なっていると報告があった。また、新たに受け入れをした文書群として、妻沼の堀越家文書ほか九件の説明がなされた。

・資料編の進捗状況について

資料編（三冊）の構成について検討がなされ、担当者によってそれぞれの進捗状況の説明があった。また、細野専門調査員より、資料編（妻沼）の内容に関して、上江袋村の長島家文書の報告があった。また、石山専門調査員より資料編（熊谷宿）の構成案の提示があった。

・古文書所在調査について

昨年度の決定をうけて、国文学研究資料館所蔵の掛川家文書（永井太田）、忍藩領関係の史料調査として行田市郷土博物館所蔵文書についての説明があった。今年度は国文学研究資料館の調査を中心におこなうこととなった。

・専門調査員の増員について

本年度より人権関係の担当者として、吉田勉氏に加えて、新たに松本勝氏の増員がなされた。また事務局職員の異動にともない、吉野健（担当副参事）・大野幸人（副課長兼室長）の紹介がなされた。

平成二九年度第二回近世部会（平成二九年一月二三日）

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、五件の説明があった。また、現在調査中の文書群については、依瀬の荻野晃三郎家文書はじめ四八件のほか、旧大里町の村史編さん資料の説明があった。

・資料編の進捗状況について

資料編（三冊）の構成について検討がなされ、妻沼編・熊谷宿の担当者によってそれぞれの章立て案や掲載する資料などの説明がなされた。また、妻沼編については刊行スケジュール案の提示があり、編集作業の検討がなされた。このほかに資料編の熊谷（在方）の巻担当者について、人員補充の検討がなされ、専門調査員の補充とあわせて全体業務の補佐として特別調査員の補充も必要で

ある旨が部会内で了承された。

・古文書所在調査について

国文学研究資料館に所蔵される永井太田の掛川家文書の調査状況について説明があり、当初予定されていた点数以上に調査対象となる古文書が多いとの報告があり、今後とも調査を継続することとなった。また、次年度以降の遠隔地調査の候補についても検討がなされた

## 五 近代専門部会

近代専門部会長 村田 安穂

### 1 平成二八年度第三回近代専門部会会議

(平成二九年三月五日 市立熊谷図書館)

事務局から、吉田勉委員の委嘱について報告を受けた。その後、刊行スケジュールの確認、史料リストの検討、各委員の進捗状況の報告を行った。また、体裁については、項の中に見出しをつけず、章・節・項の三段階で構成することを確認した。なお、各委員は掲載史料の確定に向け、早急に史料の絞り込みを行うことになった。

### 2 平成二九年度第一回近代専門部会会議

(平成二九年五月二〇日 商工会館)

今回から、吉田勉委員が出席。人権分野について、各章に項を立てること、委員の委嘱が遅くなったので、刊行スケジュールについて配慮することなどを確認した。その後、第一章より目次に沿って掲載史料リストを検討し、各節や項の改善点や変更点を明らかにした。この結果に沿って、各委員は作業を進め、事務局は組版と頁数案(全体・分野別)を作成、次回会議までに委員に提示することになった。

### 3 平成二九年度第二回近代専門部会会議

(平成二九年一〇月二十九日 商工会館)

事務局から、松本勝委員の委嘱について報告を受けた。松本委員は今回の会議から出席。事務局から、刊行スケジュール修正案・頁数目安案・組版の説明が行われた。委員から提案のあった史料の形態や文書群の解説の掲載、連名の省略、付録(迅速測図原図)などを検討した。解説は各章の始めに掲載することを確認した。今後は、各委員が分野別の頁数目安案を

参考に史料を絞り込むことになった。

#### 4 平成二九年度第三回近代専門部会会議

(平成二九年二月二五日 商工会館)

各委員の進捗状況の報告を兼ね、目次順に掲載史料リストの検討を行い、その後、凡例・執筆要綱について協議した。各委員は更に掲載史料の確定を進め、三〇年一月中旬に事務局に提出、二月下旬に次回会議を行う予定となった。

#### 2 平成二九年度第一回現代専門部会会議

(平成二九年四月二三日 妻沼展示館)

吉田委員が今回から出席し、同委員から人権分野の今後の進め方について提案があり、承認した。次に、解説の体裁を協議し、各章の最初に掲載する方針を決定した。その後、各委員から進捗状況の報告を行った。今後は、事務局が組版を作成し、次回会議までに委員に提示することになった。

#### 3 平成二九年第二回現代専門部会会議

(平成二九年六月四日 妻沼展示館)

事務局から、組版と本全体及び現代分の頁数案の説明を受けた。その後、組版をもとに、体裁や内容について協議を行った。

### 六 現代専門部会

現代専門部会長代理 高橋 信之

#### 1 平成二八年度第五回現代専門部会会議

(平成二九年一月二九日 妻沼展示館)

事務局から、吉田勉委員の委嘱について報告を受けた。次に、体裁の検討を行い、出典表記やルビ、縦組みの資料の扱いなどを議論した。その後、各委員から進捗状況の報告を行った。

#### 4 平成二九年第三回現代専門部会会議

(平成二九年七月三一日 妻沼中央公民館)

事務局から、松本勝委員の委嘱について報告を受けた。松本委員は今回から出席。事務局から分野別の頁数目安案の説明があり、概ね各

分野とも史料を大幅に削る必要があることを確認した。その後、各委員から進捗状況の報告を行った。

### 5 平成二九年第四回現代専門部会会議

(平成二九年九月二二日 妻沼中央公民館)

事務局から、刊行スケジュールの修正案や現状の筆耕頁数について説明を受けた。分野別の頁配分や人権分野を加えた目次構成などを協議し、該当する節の最後に人権に関する項を立てること、既に他分野の委員が選出していた人権に関わる史料や項目は担当を変更することを確認した。その後、各委員が進捗状況の報告を行った。

### 6 平成二九年第五回現代専門部会会議

(平成二九年一月二七日 妻沼中央公民館)

事務局から、平成二九年度第二回近代専門部会会議の報告を受け、現代部会の方針を協議した。史料形態の記載や連名の省略、文書群の解説などは、必要に応じて個別に対応することとした。その後、各委員から史料の絞り込みを進めている状況が報告された。今後は、平成三〇年一月上旬に掲載史料提出締切、同二月末に解説提

出締切とした。

※各回とも、会議前または会議後に、同会場において希望者による資料調査を行った。

### 七 仏像・仏画専門部会

#### 1 調査概要

平成二四年から調査を開始し、平成二九年は六年目となる。今年、旧熊谷地域の荒川以北地域を中心とした地域の調査を行った。月に一回、一日一ないし三か寺のペースで調査を行い、合計一〇日間、二二の寺院と堂庵を調査した。

仏像調査専門部会長 林 宏一

調査内容は、写真撮影及び寸法や形状・材質等を記した調査カードの作成である。一年間で三八一点の仏像・仏画等の調査を終えることができた。この六年間の累計では、二〇〇〇点超の調査を行ったことになる。

今期間の調査で見えられた代東善寺の木造阿弥陀如来立像は、鎌倉時代の早い時期に、快慶の工房で作製されたものと推定される。「通史編上巻」において概要を報

告するとともに、改めて調査・写真撮影等を行う予定である。

なお、調査前の各寺院との交渉は坂東隆秀委員、調査後の調査カードと写真の整理は西口由子委員が行った。

平成二九年に実施した調査は以下のとおりである。

- 1 上川上浄泉寺 (二月一六日)
- 2 円光光照寺 (二月一六日)
- 3 中奈良常楽寺 (三月一三日)
- 4 万吉観音堂 (四月二八日)
- 5 万吉第一集会所 (四月二八日)
- 6 万吉如意輪観音堂 (四月二八日)
- 7 広瀬円福寺 (五月二九日)
- 8 広瀬不動堂 (五月二九日)
- 9 石原東漸寺 (五月二九日)
- 10 久保島観照院 (六月二一日)
- 11 久保島大光寺 (六月二一日)
- 12 江波宝蔵院 (七月一八日)
- 13 上須戸西光院 (七月一八日)
- 14 久保島白林寺 (九月二八日)

- 15 久保島観音堂 (九月二八日)
- 16 久保島尊乘院 (九月二八日)
- 17 今井弘誓寺 (一〇月二七日)
- 18 小曾根光明寺 (一〇月二七日)
- 19 上之東光寺 (一〇月二七日)
- 20 代東善寺 (一一月二七日)
- 21 原島吉祥寺 (一二月二〇日)
- 22 原島養平寺 (一二月二〇日)

## 2 報告書編集会議の開催

平成二八年度 第一回専門部会会議

(平成二九年一月三〇日 市立商工会館)

平成三一年度刊行予定の調査報告書「仏像・仏画」についての編集会議を開催した。

事務局から、年次計画等の概要の報告を受けた後、本の構成・体裁・掲載対象・役割分担・今後の調査等についての審議を行った。

原則として調査を行った全点を掲載し、それぞれの像ごとにランクを付けて掲載スペースを決めること、仏画や仏具については取り上げるが、襖絵や天井絵などそれ

以外の絵画は当報告書では取り上げないこと等を確認した。

また、仏像・仏画以外の寺院の美術品について、自治体史では取り上げられないことも多いが、今回はこれらの調査も行っており、また、その地元の歴史を考える上で、非常に重要な資料となり得るものである。市史編さん事業の中で、何らかの形で取り上げるべきであるとの意見が多数出た。

### 3 その他

部会長が、「通史編上巻」の第五章及び第一〇章に、調査の成果を踏まえて、市内の古代及び中世に関する仏像や仏画、金工品についての執筆・校正を行った。

最後に、調査先寺院・自治会関係者各位の多大なる御協力に対して、心よりお礼申し上げます。